

私事ですが、昨年末に 28 年余り勤務していた NTT 東日本関東病院を退職し、本年 2 月から病院玄関から徒歩 1 分、いわゆる門前クリニックを開院する運びとなりました。決断に至った理由はいくつかあるのですが、その大きな一つは病診連携の推進です。

ご存知のとおり大病院は患者の滞留を避けるために、かかりつけ医機能を担う地域の医療機関への逆紹介を積極的に行っており、すでに逆紹介が行われている傷病で再診しようとするれば選定療養費が徴収できる制度もできあがっています。関東病院もその例に漏れませんが、当院はベッド数に比して外来患者が多すぎることが以前から問題とされていました。事務サイドはさらなる分析を行っていて、皮膚科の外来患者の 1/3 は外来診療料+処方箋料のみであるので、こういった患者さんは近隣の開業医に逆紹介して外来診療の負担を減らし、その分入院診療に注力して診療収入を伸ばすべきであるとの指摘を受けておりました。元々皮膚科は入院より外来の診療収入のほうが多い科ですので上記の方針が果たして収入増に繋がるのか疑問ではありましたが、上層部の方針に逆らう気力はなく、どうせ患者さんを逆紹介するのなら自分が受け入れて病診連携を円滑に行っていこうと思った次第です。たまたま門前でクリニックをされていた先生がご高齢のため閉院され、ビルのオーナーさんが新たな先生を探していたのも後押しとなりました。

開院して日が浅く、まだまだ採算がとれる状態には至っておりませんが、幸いにも多くの患者さんが私についてきてくださいました。また意外にも近隣の住民の方の受診が多く、「近くに皮膚科ができてよかった」との声を聞くのは少々驚きでした。近くにお住まいでも関東病院を受診したことがない方が結構いらして、改めて大病院の敷居の高さを感じざるを得ませんでした。また、現金なもので勤務医から開業医に転身してコスト面での意識が格段に上がりました。綿棒や手袋の値段まで気にするようになり、立場が変わると人は変わるものです。さらには開業医の視点から今まで気づかなかったものがなにか見えてくるのではないかと密かに期待しています。

関東病院時代、かつては 1 日外来患者数が 300 人を超えた日もあったことが懐かしく思い出されますが、今後は病院とクリニックのそれぞれのメリットを生かした病診連携をめざし、受診して良かったと思っていただけるような診療を心がける所存です。

(五十嵐敦之)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第 65 巻 第 3 号 3 月号

2023 年 3 月 1 日発行 (毎月 1 回 1 日発行)

定価 3,190 円 (本体 2,900 円 + 税 10%)

年間購読料金

定価 48,950 円 (本体 44,500 円 + 税 10%)

[年間 13 冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165 [編集室直通]

TEL 03(3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。